

第6章

1 (1)

P75 将来人口の推計

日本の人口は予測よりはるかに急激に出生数が減っており、2023 年の出生数 72 万が、2024 年は 68 万台と推計されています。津市の場合は、令和 6 年の月平均出生数は、前年比で 92.1%（令和 5 年 136 令和 6 年 125）と減少しています。三重県全体は、93.7%ですので、三重県の中でも出生数が減少している地域となります。津市として、少子化対策や、子ども・子育て政策に比重を置き、予算をつけていただくことが、急務と考えています。

P87 地域子ども・子育て支援事業の充実

公的な子育て支援センターではなく、地域の支援者やそれぞれの特殊性を生かした民間団体などが開設する子育て広場等があります。支援者は、ボランティア的に運営していることが多いです。また、こども食堂やこどもの居場所作りなど、様々な親子やこどものために事業を展開しているところも支援者の思いでボランティア的に活動しています。活動の実態が把握されていません。津市のネットワーク作りをすすめていただき、状況を把握していただき、活動している団体に補助や支援をお願いしたいと思います。

P90 子育て短期支援事業

母の急な入院等で子育て支援ショートステイ事業が必要となるご家庭があります。その場合、児童養護施設を紹介されますが、利用したくない方が多く、必要なのに利用されていません。ショートステイ事業ができる場所を増やしていただき、利用しやすい事業にしたいです。急なショートステイをお願いした施設には十分な支払いをお願いしたいと思います。

P91 子育て援助活動支援事業

津市のファミリーサポート事業はマッチングが必要なため、利用者からは利用しにくく、利用しなかったという意見を多く聞きます。今後、津市が創設する「（仮称）産前・子育て応援ヘルパー派遣事業」の方が、ニーズが高いと思われます。ワンオペ育児で疲労困憊している親を多くみます。是非、ニーズに合わせた利用しやすい事業にしたいです、早急に利用できるよう検討していただきたいと思います。

P97 産後ケア事業

産後ケア事業は、今後非常に重要な事業と考えています。より良い事業にするため、母親にニーズを聞きながら、受け入れ側の産科施設や助産院との検討が必要だと思っています。他県の産後ケア事業の事例も参考にしながら、今後もよりよい産後ケア事業にできるよう津市と連携していきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

その他

ICT・メディアリテラシー教育

小学生から iPad を使った授業が開始されています。今は、幼児でもスマホを使ってゲームをしています。子供や若者たちのスマホ依存が問題になっています。諸外国では、SNS やスマホの利用による子どもへの心身の影響を問題視し、子どもの SNS 使用禁止を検討している国もあります。これからの子ども達にとって非常に重要な問題だと感じています。教育現場で、子ども達がこれから SNS やスマホとどのように付き合っていくべきなのか、メディアリテラシー教育を津市独自の政策としていれていただきたいと思います。